第8号
2025年
夏

祈祷書 改正 ニュース

発行：日本聖公会 祈祷書改正委員会
【 発行日：2025年8月25日 】

わたしたちは、改正によって、
多彩ないのちを大切にする
21世紀日本の聖公会祈祷書
を作成します。
―祈祷書改正の理念（ミッション）―

継続する絆

司祭 ヤコブ 荻原 充（祈祷書改正委員）

わたしたちは人生の歩みのなかで、大切な人や大切なものを喪失するという経験を幾度となくし、その度に悲しみを経験します。特に愛する人との死別というのは、人生において最も悲しく、辛い出来事です。そのようななかで、喪の作業・グリーフワークや悲嘆のケア、遺族への支援が必要だといわれるようにもなってきています。この背景にあるのは、わたしたちの生きる現代社会において、死を身近に経験することが少なくなってきたこと、そして宗教の力が弱まってきたことがあげられています。

家族構成が核家族化し、祖父や祖母と一緒に住むことが少なくなってきました。また1950年代には家での死が 8 割ほどであったのが、現在では病院で亡くなる方が全体の 7 割程になっています。このように、家での看取りが少なくなり病院での死が多くなって、身近で死に触れる機会が減少しているといわれます。そして宗教の語る死生観が理解されなくなってきている。これらの要因によって、死を受け止めるということが困難な状況にわたしたちは置かれていると指摘されています。これらのことから、悲しんでいる者へのケアが強調されるようになってきたのです。

これまでの喪の作業の考え方というのは、悲しみを避けたり、抑え込んだりすることはよくないことであって、悲しみと積極的に向き合い、それを乗り越えることが喪の作業の目的とされ、遺族には喪失体験について語り、感情を表出することが求められてきました。つまり、亡くなった方との関係を切り離し、新しい人間関係へと向かうことが正常な喪の作業の目標だとされてきたのです。しかし近年の研究においては、そのような目標を達成することよりも、悲嘆の過程、悲しむプロセスを共にすることが重要視されるようになってきました。そして、「継続する絆 Continuing Bonds」という考え方が強調されるようになってきています。

教会における通夜、葬送式、逝去者記念式という礼拝も、まさに絆の継続を意識したものだといえるでしょう。肉体的な死を迎えても、関係が継続していることを確認する。そして、教会においては辛さや悲しみを一人で負うのでもなく、悲しみを受け止めてくれる仲間と共に担う。これが教会の喪の作業の特徴だといえるでしょう。このような死別を体験した人に対する牧会的な視点を現代的課題と認識しながら祈祷書改正作業を行っています。

試用版の概要・改正ポイント

2025 年 6 月の主教会で新たに試用の承認をいただいた 2 つの項目、また内容は既に承認されていましたが今回ようやく試用版が発行された項目について、概要と改正ポイントをご紹介します。

特祷 ～ 緑の期節

降臨節第 1 主日から三位一体主日までに続いて、聖霊降臨後の期節、いわゆる「緑」の期間の特祷（特定 1 から特定 29）も現在、「試用第 3 版」として公開しています。どうぞ主日に、また週日にお使いいただいて、感想、ご意見をいただきたいと思います。

【特祷とは何でしょう】

特祷そのものについての説明は、「祈祷書改正ニュース」の前号にも書いています。その日の礼拝、とくに聖餐式において「司式者が会衆を祈りへと招き、神への思いを一つにするため」の祈りであり、聖餐式のはじめの部分（参入）を締めくくる祈りです。会衆の祈りを一つに集めるという意味で「集祷」（英語ではコレクト）と呼ばれる、小さいですが重要な祈りです。

【３年周期の聖書朗読と特祷】

20 世紀の聖公会の世界的な祈祷書改正は、同時に聖書朗読日課の改訂・刷新でもありました。A 年（マタイ）、B 年（マルコ）、C 年（ルカ）の 3 年周期でわたしたちは福音書を読んでいます。降臨節から聖霊降臨日までの期間は、「キリストの救いの出来事」（降誕や受難、復活、昇天等）を教会暦でも記念し、それに合わせた聖書、とくに福音書が読まれ、特祷もまた、その主題を祈ってきました。特祷の主題は、その日（あるいはその期節）の福音書の主題と基本的には対応していました。

【緑の期節の特祷は普遍的な教会の祈り】

しかし聖霊降臨後の期節、福音書はやはり 3 年周期で読まれますが、この期間は主イエスの地上の生涯における教えやなさった業を、それぞれの福音書で大体、継続的に（5 章、 6 章、 7 章と）読んでいきます。ある主日に 3 つの福音書が、同じ主題を取り上げるということはなくなります。したがって特祷が、その日の福音書の内容に直接に対応するということも、基本的にはありません（特祷も 3 年周期にして各年の福音書と対応させる実践もありますが、日本聖公会では今後の課題です）。

それでは、この期節の特祷とは何でしょう。実はこの期間の特祷も、大変長い歴史を持っています。古くは古代のローマ教会の典礼に由来し、16 世紀以降の英国教会の祈祷書を経て、明治期以降の日本聖公会の祈祷書へ、そして 1990 年の現行祈祷書に至るまで、かなり歴史的な形式と内容を保ってきました。それらは信仰生活のさまざまな場面でも用いられるキリスト者の祈り、普遍的な内容の祈りと言えます。例えば次のような祈りです。

「全能の神よ、どうかこの世界が御計画のうちに安らかに治められ、主の教会がいつも喜びに溢れ、信頼と穏やかな心をもって、あなたに仕えることができますように」（「試用第 3 版」特定 5。現行祈祷書でも同様。一部字句改正）。

同時に 20 世紀には各国聖公会で新しい特祷も作られてきました。今回の改正作業では、そ

の両方に目を向けながら試用版を作成しています。どうぞ聖霊降臨後の期節の特祷も味わってみていただきたいと願います。

就寝前の祈り

改正祈祷書では、「毎日の祈り」という章に、朝・昼・夕・就寝前の 4 つの祈りが配置され、祈りつつ一日の生活を歩むことが強調されています。その最後に位置づけられているのが「就寝前の祈り（終祷）」で、個人または小さな集まりで用いられる簡素な祈りとして整えられました。

祈りの名称は、「しゅうしんぜん（就寝前）」という漢語的な読みから、「しゅうしんまえ」という自然な日本語の読みへと改められました。また、（祈祷書には含めていませんが）「コンプリン」と呼ばれることもあります。この名称は、ラテン語の completorium（完了）に由来し、修道院で一日の終わりを静かに神の前に差し出すために唱えられていた祈りです。クランマーは、第一祈祷書で修道院的な祈りを朝と夕の祈りにまとめ、この祈りは直接には祈祷書に含まれませんでしたが、コンプリンの要素のいくつか（シメオンの歌など）は夕の祈りに取り入れられました。現代では、多くの祈祷書がコンプリンを復活させており、改正祈祷書も現行祈祷書同様米国 1979 年祈祷書のものを基本とし、他の祈祷書も参照して作成されました。

構造は、大きく４つの部分に分かれています。最初の「備え・招き」では、静かな導入として聖句や黙想を用いることができます。回心の祈りは必須ではなく、必要に応じて省略も可能です。開式には、夕の祈りと同じ伝統的な唱和が用いられます。

「御言葉」では、詩編や短い聖書の聖句が読まれます。詩編は 4、31、91、134 から用いますが、いずれも古くから夜の祈りに親しまれてきたものです。聖書朗読は、1 週間のサイクルを意識し、「昼の祈り」同様に 7 つの短い聖句が用意されています。他の聖句を用いる場合も、日課朗読のような形ではなく、短い黙想的な箇所を用いてください。その後には賛歌が続き、中心となるのは夕の祈りでも用いる「シメオンの歌」ですが、聖歌第 40 番「Te lucis」も古くからコンプリンに用いられた聖歌です。他の詩編・詩頌や聖歌を用いる場合も、短く黙想的であることを意識しましょう。

「祈り」の部分では、5 種類の就寝前の特祷が用意されています。基本的には、現行祈祷書と同じ内容ですが、どれも一日の終わりにふさわしい内容です。現行と同じ主日前夜（土曜の夜）のための特祷は、テゼ共同体の祈りに由来するものです。代祷などを用いる場合、短い祈りを唱えるような控えめな形が望ましいでしょう。

最後の「結び」では、詩編 4 および 130 をもとにした応唱（同じ詩編の言葉の繰り返しを避けるため、カトリックの典礼用詩編の文言を参照しています）と、祝祷によって礼拝が締めくくられます。

「完了」の意味にふさわしく、祈りの後に何かをするのではなく、祈りの後は解散または就寝するのが理想で、アナウンス等がもしあれば、祈りの前に行うようにします。礼拝の内容としても過度に内容を盛り込まず、静かな一日の振り返りの場となることが望ましいでしょう。

諸祈祷・感謝

諸祈祷・感謝の改正にあたっては、必要と考えられる項目のリストアップなどをして、採用項目の決定とグルーピング、そして全体とカテゴリ内での各順番を決め、諸祈祷 63 項目、感謝 9 項目、合計 72 項目となりました。採用項目は、「公祷で用いる」ものを原則としていますが、教会生活と信仰生活において特に必要とされるであろう項目も含まれています。試用版では、教会のため、宣教のため、人びとのため、逝去者のため、いのち・平和のため、教育・福祉・社会のため、日々の祈り、折々の祈り、の８つのカテゴリと順番にして、アクセスにも配慮しています。

新規採用項目には現行祈祷書が発行されてから現在までの日本聖公会総会での諸決議、主教会や各委員会からの公式メッセージに基づいて変更・採用した項目も少なくありません。たとえば、「堅信前の陪餐」が行われるようになり、洗礼と堅信の神学的理解が深められました。こうした神学・教義に基づく項目は「教会問答」と整合するよう起草されました。また、私たちの社会に起きたこと、ライフスタイルの多様化等に配慮した項目も新たに加えられています。

今回は、新規に採用した２つの項目についてご紹介したいと思います。

① 逝去者のため－ペットを亡くした人のため

「すべてのものの造り主、いのちの源である神よ、あなたは空の鳥に食べ物を与え、野の花を美しく装ってくださいます。あなたはわたしたちに、愛する（――）と共に暮らし、心を通い合わせる喜びを与えてくださいました。これまでのかけがえのない祝福と恵みに感謝いたします。どうか、（――）があなたの御手のなかで安らかでありますように。また、悲しむ人にあなたのまなざしと慈しみをそそぎ、慰めと力を与えてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン」

この祈りは厳密には「逝去者のため」ではありませんが、「死」に関係が深いために逝去者のためのカテゴリに置かれています。「ペット」という呼称の採用についても議論がありました。イメージとしては「伴侶動物（companion animal）」などのほうが実際的であると思われますが、広く認知されている呼称を用いることにしました。この祈りのポイントは、人も動物もすべて神に造られたものであること、ペットとの出会いと暮らしに祝福と恵みがあったことを感謝すること、悲しむ人に慰めがあるように、です。

②日々の祈り－「一日を始めるときの祈り」「一日を終えるときの祈り⑴・⑵」

紙面の都合で祈祷文を掲載できませんでしたが、今回の改正のポイントはライフスタイルの多様化に配慮したことです。現代の働きかたや家族構成の多様化のため、必ずしも一日が「朝」から始まり、「夜」に終わらない人もいます。また、家族で暮らす人、離れて暮らす人、一人で暮らす人もいます。そのため、タイトルも「家族の朝の祈り」「家族の夕の祈り」より変更し、またルブリックに「『わたし』を『わたしたち』等に、また時間を示すことばはふさわしく読み替えてもよい」と記載しました。多くの方に用いられるお祈りとなれば嬉しいです。

試用版を使った礼拝の実践

教会や教区、また様々な集まりで、試用版を用いた礼拝が行われています。今回は、3 人の方々に試用版を用いた礼拝の感想や気づきなどのご報告をいただきました。

喜んで頂く陪餐の流れに

青年委員会委員長 司祭 ジョイ 千松清美

2025 年 5 月 4 日(日)～5 日(月・休)名古屋学生青年センターにて、2025CCEA アジア青年大会第 1 回準備会を開催し、この大会の参加者と講師、教区青年担当者、青年委員会の 23 名で本番に備えた学びと交流をしました。プログラムの終わりに聖餐式を行い、【試用版】感謝聖餐式の式文を用いました。

聖餐式の段取りは、司式担当者である成岡宏晃司祭にすべてお任せしていましたので、意図的に試用版を用いる予定ではなく、当日になって印刷物が配布されて良い機会として試みられました。唐突すぎて驚きましたが、普段と違う応答文に言い慣れず戸惑うことはあったとしても、聖餐式の流れが大きく変わってはいないので、違和感なく賛美と感謝の祈りに心を向けることができました。懺悔が冒頭にありましたので、その点は大きく違っていて、陪餐の際によりへりくだる思いではなく、喜んでいただくような流れになっている点が私としては良い流れだと思いました。

ドキドキする礼拝

東京教区 大森聖アグネス教会
セシリア 斉藤響子

今年の大斎節第 1 主日、大森聖アグネス教会にて、試用版式文を用いて「感謝聖餐式」を捧げました。チャントは無し、聖歌は 5 曲でした。司式の市原信太郎司祭には礼拝後、祈祷書改正や式文（主教会認可の中から今回のために選択された箇所があること等）についてお話を伺いました。

礼拝中、会衆の声が乱れたのは微妙な変更箇所。主に栄光「がありますように」と言う人言わない人。「主なる神に感謝しましょう」「感謝と賛美は…ごにょごにょ」。

その後の講話で市原司祭が仰ったのは「皆さんドキドキしながら礼拝を捧げたでしょ？それがいいんです。慣れてしまって考えなくてもついていける、いわば自動運転では〈今、ここ〉に集中できないから」。

礼拝は一期一会。期節を意識できるように期節ごとの選択肢が多いことも、二度と無いその瞬間を味わうために役立ちそうです。

試用版の豊かさにふれて

大阪教区 礼拝・音楽委員会委員長　マリア 小野田富美子

5 月 28 日大阪教区礼拝・音楽委員会を開催しました折に、「夕の祈り」試用第 1 版を用い、委員 6 人で祈りの時を持ちました。柳時京司祭の司式・説教、委員が詩編と聖書日課の朗読、奏楽は辻彩乃委員に担当していただきました。

回心の祈りで［Ⅲ］を用いましたが、私たちではなく【私が】と唱えるところで、自分の祈りとして身近に感じられグッと集中力が高まり背筋が伸びる思いがしたこと、主の祈りを唱える際に、憐みではなく【主よ、いつくしみをお与えください】に変わっていて心が温かく包まれる思いになったこと、習慣で言葉を発しているにすぎなかったと気づかされたことなどを話し合いました。

礼拝を豊かにするためにも、今に相応しい言葉を選び次世代につなげていくためにも、祈祷書改正委員会の皆さまの尊いお働きに感謝しお祈りを続けたいと思いました。

【連続エッセイ　第８回】

エクレシア・オランス

祈　る　教　会

― 聖公会の礼拝と祈祷書＜８＞ ―

主教 ヨハネ 加藤 博道

「（イエスは）群衆を解散させてから、祈るために独り山に登られた」

（『マタイによる福音書』第 14 章 23 節）

共に祈ること・独りで祈ること

以前、俳優で歌手の夏木マリさんがテレビでこういう話をしておられました。フランスのパリで演劇の公演をされたそうです。「二人連れ（夫婦や恋人）でも、つまらないと思った方は、途中でも一人で席をたって帰ってしまう。しかしもう一人は面白いと思えば、最後まで楽しそうに観ていく」と。「個人主義の国だから」という話でした。日本だったらそうはならないなと思いました。一人がつまらないから帰ると言えば、もう一人も「え～？」とか言いながらも、一緒に出て行くのではないか。あるいは帰りたいと思った方も、相手を思って遠慮して、席を立ったりはしないのではないか。余程のことがない限り、そこで自分は自分とはならないように思います。相手に対する思いやりとも言えるでしょうが、お互いの「和」を乱したくないという気持ちが、わたしたちは強いように思います。まさに聖徳太子の「十七条憲法」以来、「和をもって貴しとなす」心性があるようです。

1990 年の現行祈祷書で、大いに強調されたのは「共同性」「教会が共同体であること」です。わたしももちろんそれを重要と考えています。しかし昔からそうかと言うとそうでもなく、ある時代までは、むしろ「自分の信仰」「自分の魂の救い」の方がよほど強調されていました。現行祈祷書で「平和のあいさつ」が一つの所作として入ったとき、教会の中でかなり抵抗がありました。「神と自分の関係が大事」で「礼拝中に横を向いて他人の顔を見るなんてよくない」と、実際に教えられてきたと言われますし、わたしもそれに近い話を聞いたことはあります。

世界的な礼拝や祈祷書の研究の深化、刷新の中で共同性が強調されてきたことは、まったく正当で大事に思います。ただ、そうした祈祷書

改正の基本的精神は、わたしたちが本当に自分たちの経験から獲得してきたことでしょうか。日本的な社会における自律した「個人」とは？集団とか団体とか同好会とは異なる「共同体」とは？ わたし自身の中にもまだ曖昧なものがあります。

リタージカル・ムーブメントと言われる礼拝の刷新運動の背景には 1789 年のフランス革命の影響があると言われます。フランス革命によって起こった教会批判と、同時に「行き過ぎた個人主義（および人間中心主義）」に対して、かなり復古主義的な傾向をもちつつ、中世修道院の共同体生活の回復を目指す運動も起こりました（フランスのソレム修道院でのグレゴリオ聖歌の復興・実践等も）。しかし「温故知新」と言うべきでしょうか、そういう中から古代・中世の典礼研究が進み、聖書学の成果やその時代の新しい知識、経験ともあいまって、徐々に教会が信徒の共同体であることや、会衆の行動的な礼拝参加の意義が明らかになってきたのです。果たして、わたしたちは「行き過ぎるほどの個人主義」を経験しながら、その格闘の中から本当の共同性とは何かを学び取ってきただろうか？「大きな流れになったら、反対意見は言いにくい」というのでは、それは「忖度共同体」ということになるでしょう。

ドイツの神学者ボンヘッファーの名著『共に生きる生活』の中に次のような言葉があります。「ひとりでいることのできない者は、交わり（にはいること）を用心しなさい」「交わりの中にいない者は、ひとりでいることを用心しなさい」。

ボンヘッファーの時代、一方には危険な「共同性」がありました。ナチスの力です。人が集まって、一致団結し声を合わせて歌うことには人を陶酔させる力があり、危うさがありました。そういう中で、キリスト者にとっての「独りで祈ること」「共に祈ること」の意味について、この名著は語っています。

今、改正に取り組んでいる祈祷書も、共通した課題を持っているように思います。

（2016-2017 祈祷書改正委員会担当主教）

改正祈祷書試用版に関するお知らせ

★ 「日本聖公会 改正祈祷書ホームページ」から、現在利用可能な試用版をダウンロードできます。
https://nskk-pb2026.blogspot.com/p/index.html リンクの QR コード →
試用版に関するご意見、ご感想もこちらへお寄せください。

★上記ホームページにて、新たに以下の情報を提供しています。

✓改正祈祷書情報提供サービス（情報提供メーリングリスト）を開始しました。試用版の公開・更新、ニュース・レター発行などの情報をメールでお知らせします。ぜひご登録ください。

✓「改正祈祷書情報」ページを新規作成、その中で『神学の声』の論文の抜刷を掲載しています。改正の解説的な内容ですので参考になさってください。

★ 詩編：試用第 1 版-2 の修正シールと携帯用正誤表を作成しました。

★ 聖餐式聖書日課：試用第 2 版-4 に多数の間違いがあったため、試用第 2 版-5 を発行しました。

新たな革袋へ

北海道教区 礼拝委員会委員長 司祭 グレゴリー 松井新世

過日 2025 年 6 月 20 日から 22 日まで、札幌キリスト教会を会場として行われた「礼拝研修会」は、会場・オンライン参加者合わせて 59 名（会場 36 名、オンライン 17 名、礼拝委員会 6 名）でした。この度の礼拝研修会は、コロナ明け 7 年ぶりの開催となりました。

研修会のテーマは「これからの祈祷書について学ぶ」というもので、管区礼拝委員会委員長、祈祷書改正委員長の笹森田鶴主教と祈祷書改正作業に長年携わっている市原信太郎司祭（中部教区）を講師として迎えた、まさに時機に応じた研修会だったとも思います。

また、その内容は、大変多岐に渡るものでした。祈祷書改正の理念、詩編、教会問答、ユーカリスト（聖餐式）、牧会諸式（病者と共に捧げる礼拝・葬送の式・聖婚式）、ワークショップ…。

かつて神学校で教わったのは、祈りの言葉は変わっていくということでした。例えば、受肉、人性、神性、いさお、祭司職…などの言葉が、祈りにのっていくのかを考えさせられる、私にとっては刮目に値するものでした。

最終日は、札幌キリスト教会にて同教会の信徒の皆様と共に新しい（改正祈祷書試用版第 1 版）聖餐式の式文を用いて礼拝を捧げるという、まことに得難い新鮮な経験を致しました。また、研修会中の、朝の祈りなどは、新しい式文・詩編・聖書日課などを用いての信徒司式によるものでしたが、どなたも自信をもっての司式、奏楽奉仕をなさっておりましたことは印象的でした。最後に、沢山頂いたご感想から幾つかをご紹介いたします。

- 牧会諸式の式文のお話を伺ううちに、Life、人生、私のこの与えられた命、一日を神に感謝・賛美するのが私たちの務めだと確認しました。
- 東アジアの先生方がつくった感謝聖餐祈祷は本当に心打たれた。この祈祷を生涯ずっと新鮮な感動を持ち続けて祈っていけたらいいなと思いました。
- 実に恵み豊かな研修会でした。祈祷書改正のことを通して、自らの信仰を振り返ることができました。

祈祷書改正委員（2025 年 8 月現在　50 音順）

担当主教：主教 笹森 田鶴（北海道）2023.4 より（委員長兼務）

委　員　：司祭 市原 信太郎（中部・実務担当者）、司祭 荻原充（東京）、執事 越智容子（北関東）、坂本 日菜（横浜）、辻 彩乃（大阪）、司祭 永谷 亮（北海道）、司祭 永野 拓也（神戸）、司祭 成岡 宏晃（大阪）、司祭 林 和広（神戸）、布川 悦子（東京）、司祭 大和 孝明（中部）

「祈祷書改正ニュース」は祈祷書改正に関するさまざまな報告とともに、祈祷書や礼拝について、あらためて考えるきっかけとなるようなニュース・レターを目指しています。
複数部お入り用の方は、管区事務所までご連絡ください。また祈祷書改正委員会のホームページもどうぞご覧ください。QR コードからも閲覧できます。

https://johnan18942.wixsite.com/nskk-prayerbook2026

祈祷書改正委員会 広報チーム